

## 2020 年度前期「遠隔授業に関するアンケート」集計結果

今年度前期は新型コロナウイルス感染症の拡大という予期せぬ事態により、登学対面を伴わない遠隔授業を中心に授業を運営するという、これまでにない形となりました。

本学では既に今年度後期も「科目の性質等に応じて対面授業と遠隔授業を併用する新たな授業運営形態（ハイブリッド型）をとる」ことを明示しています。それに向けて前期の遠隔授業について振り返りを行い、実態を把握するとともに、後期に向けた改善点や課題を見出すことを目的として、学生の皆さんにアンケート調査への回答をお願いしました（実施期間：7/24～8/7）。

### 1. あなたの所属学科を教えてください。

[詳細](#)

● 理学療法学科	109
● 看護医療学科	142
● 健康栄養学科	158
● 人間環境デザイン学科	76
● 現代教育学科	449



### 2. あなたの年次（学年）を教えてください。

[詳細](#)

● 1回生	305
● 2回生	227
● 3回生	247
● 4回生（過年度生を含む）	155



回答総数は 934 件、回答率は 42.7%でした。

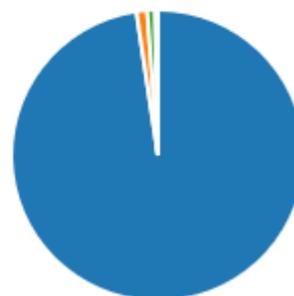
もっとも多くの回答を寄せていただいたのは現代教育学科の皆さんで、全回答数の 48.1%を占めています。年次別にみると 1 回生の皆さんの回答率ももっとも高く、在学者数の 55.9%と過半数の方から回答をいただきました。

Web 試験や最終レポート提出と重なる時期の実施であったにもかかわらず、多くの回答を得ることができました。ご協力いただいた学生の皆さん、ありがとうございました。

### 3. あなたは遠隔授業を主にどの媒体で受講していましたか。

#### 詳細

● 大学から貸与されているPC	911
● 自宅のPC	11
● スマートフォン	8
● その他	3



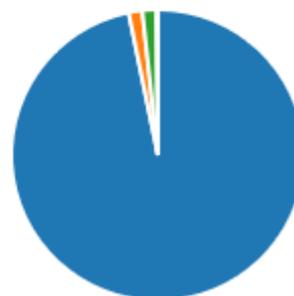
今学期は全国的に登学・対面を伴う授業運営が困難になり、多くの大学で遠隔授業が実施されることとなりましたが、「自宅に PC がない」「スマートフォンでは授業が受けにくい」などの悲鳴が多く上がる中、各大学ともその対応に苦慮していたようです。

本学は入学時に全学部生にノート PC を貸与していますので、この問題を難なくクリアすることができ、スムーズに遠隔授業を導入することができました。

### 4. あなたが遠隔授業を受講する際、利用可能な通信環境を教えてください。

#### 詳細

● 自宅や下宿などのWi-Fi	904
● モバイルWi-Fi	14
● スマートフォンなどのデータ通信（通信料制限あり）	15
● スマートフォンなどのデータ通信（通信料制限なし）	0
● その他	1



【回答肢】上から「自宅や下宿などの Wi-Fi」「モバイル Wi-Fi」「スマートフォンなどのデータ通信（通信料制限あり）」「スマートフォンなどのデータ通信（通信料制限なし）」「その他」

ほぼすべての方が「自宅や下宿などの Wi-Fi」を利用して遠隔授業を受講されていたようです。

当初は通信環境の面で苦労した方もおられるようですが、そうした声を受けて本学では一律 3 万円の支援金を皆さんに支給するなどの対策をとってきました。それが有効に活用された結果であれば嬉しく思います。

## 5. 自宅や下宿などで遠隔授業を受講することについて

### 詳細

● 特にストレスを感じることはなく、快適である	104
● 快適とまでは言えないが、大きなストレスを感じることはない	437
● 通信環境の問題など、ややストレスを感じる	235
● 大いにストレスを感じている	148
● その他	10



【回答肢】上から「特にストレスを感じることはなく、快適である」「快適とまでは言えないが、大きなストレスを感じることはない」「通信環境の問題など、ややストレスを感じることもある」「大いにストレスを感じている」「その他」

「快適とまでは言えないが、大きなストレスを感じることはない」が46.8%と最も多く、「特にストレスを感じることはなく、快適である」と合わせると6割近い皆さんがまずまず順調に学修を進めてくださっているようです。とはいえ、逆に言えば残り4割の皆さんは何かしらのストレスを抱えているということですから、そこは今後の課題として真摯に受け止めるべきところだと思っています。

なお、この設問については、上回生ほど「ストレスを感じない」と回答した方の割合が高くなっています。もともとOpenCEASの操作に慣れていることに加えて、平均的な履修科目数が少ないことにもよるでしょう。

## 6. あなたが受講した遠隔授業の種類を選んでください（複数回答可）。

### 詳細

● OpenCEASによる課題提示（レポート提出などを含む）	904
● オンデマンド映像教材の視聴（リアルタイムでの受講を必要としない）	733
● Teams、Zoomなどを用いた双方向型の授業（リアルタイムでの受講を必要とする）	659
● その他	12



【回答肢】上から「OpenCEASによる課題提示（レポート提出などを含む）」「オンデマンド映像教材の視聴（リアルタイムでの受講を必要としない）」「Teams、Zoomなどを用いた双方向型の授業（リアルタイムでの受講を必要とする）」「その他」

当初はほとんどの科目がOpenCEASによる課題付与から遠隔授業をスタートしました。それは、今まで教員も学生の皆さんも経験したことのない遠隔授業というスタイルに少しでもスムーズに入っていけるよう、皆さんが日ごろ使い慣れているOpenCEASを使うところから始めようと考えたからです。

その後、遠隔授業の運営に慣れてくると、オンデマンド映像教材の視聴やTeams、ZOOMなどを用いた双方向型の授業が導入されはじめ、多様なスタイルの授業が実施されるようになりました。

ちなみに「オンデマンド映像教材の視聴」は、理学療法学科・看護医療学科では 90%を超えており（看護医療学科は「Teams、Zoom などを用いた双方向型の授業」も 98.6%と、かなり高い割合で受講されているようでした）、健康栄養学科でも 88%に上っています。一方、人間環境デザイン学科・現代教育学科ではともに 60%台でした。このあたりは実験系科目の多い学科とそうでない学科で、「効果的な授業の作り方」に違いが出た印象です。

## 7. あなたが好きな（学修効果が高いと思う）遠隔授業の種類を選んでください（複数回答可）。

[詳細](#)

● OpenCEASによる課題提示（レ...	351
● オンデマンド映像教材の視聴（リ...	497
● Teams、Zoomなどを用いた双方...	345
● その他	32



【回答肢】上から「OpenCEAS による課題提示（レポート提出などを含む）」「オンデマンド映像教材の視聴（リアルタイムでの受講を必要としない）」「Teams、Zoom などを用いた双方向型の授業（リアルタイムでの受講を必要とする）」「その他」

設問 6 と連動する形で、学生の皆さんに自分の好きな（学修効果が高いと思う）遠隔授業の種類を回答していただきました。

もっとも多くの回答を集めたのは「オンデマンド映像の視聴」で、それに次ぐ「OpenCEASによる課題提示」と「Teams、ZOOM などを用いた双方向型授業」がほぼ同数という結果でした。

この設問の回答には、設問 6 の回答との相関性がうかがえました。つまり、理学療法学科・看護医療学科・健康栄養学科では「オンデマンド映像の視聴」が 50%台後半から 60%台に上っているのに対し、人間環境学科・現代教育学科ではいずれも 40%台にとどまっています。

## 8. 遠隔授業の質問のしやすさについて教えてください。

[詳細](#)

● 対面授業よりも質問がしやすかつ...	104
● 特に変わらない。	333
● 対面授業よりも質問がしにくかった。	463
● その他	30



教員と対面せずに授業が進んでいくことでもっとも難しくなったのが、この「質問」に関する部分ではないかと思います。

実際、49.6%の方が「対面授業よりも質問がしにくかった」と回答しています。

OpenCEAS には FAQ 機能がありますので、随時気になったことを教員に問い合わせることができますが、オンデマンド教材や Teams、ZOOM 等を用いた授業の場合、特に授業終了後の教員へのアクセスが困難なケースもあるようです。この点も今後の課題として考えていかなければいけないと考えています。

## 9. 「OpenCEAS による課題提示（レポート提出などを含む）」について「ここが困る」「ここがやりくい」という点があれば教えてください（自由記述）。

この設問には 522 件の回答が寄せられました。

中でも特に多かったのは「課題の分量が多すぎて、ついていけない」「課題がいつ出る（出た）のかわからないのが困る」など、課題の出し方についての意見でした。また「一方的な感じがして、身についている実感がない」といった声も聞かれました（このことは設問 12 の「フィードバック」にも関係してくると思います）。ほかに OpenCEAS のインターフェイスや機能そのものに関する意見も寄せられていますので、今後の改修の参考にさせていただきます。

## 10. 「オンデマンド映像教材の視聴（リアルタイムでの受講を必要としない）」について「ここが困る」「ここがやりくい」という点があれば教えてください（自由記述）。

この設問には 341 件の回答が寄せられました。

設問 7 で見たとおり学生の皆さんからはもっとも支持されている授業方法ですが、そんな中でも「動画が長すぎる科目」（場合によっては授業時間の 90 分を超えているもの）について改善を求める声が比較的多く寄せられました。また、視聴期間を限定している科目については「復習したいので、もう少し設定期間を長く」といった要望も寄せられています。ほかに「音量が小さい」「動画がよく止まる」など、通信環境に左右される側面も指摘されていました。

## 11. 「Teams、Zoom などを用いた双方向型の授業（リアルタイムでの受講を必要とする）」について「ここが困る」「ここがやりくい」という点があれば教えてください（自由記述）。

この設問には 371 件の回答が寄せられました。

リアルタイムでの受講が求められますので、設問 10 の「オンデマンド映像教材の視聴」以上に通信環境に左右される側面が大きく、寄せられた意見の大半がその部分に関するものでした。

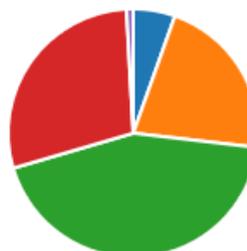
ほかに、「発言のタイミングが難しい」、あるいは特に 1 回生の方からですが、「大勢の知らない人たちの中で発言するのは勇気がいる」というような意見もありました。昨年度まで登学していた 2 回生以上の学生と違って、1 回生の皆さんには今学期ほとんど友人たちと顔を合わせる機会がありませんでしたので、その影響がこういうところに現れているようです。

また、基本的には自宅で受講することになりますので「ご家族に迷惑のかからない静謐な環境の確保に苦労した」といった声も寄せられていました。

## 12. 遠隔授業の課題に対するフィードバック（評価やコメント、アドバイスなど）について教えてください。

### 詳細

● ほぼすべての科目でフィードバックが...	50
● 多くの科目でフィードバックが得ら...	198
● フィードバックが得られる科目と得...	403
● フィードバックが得られない授業が...	265
● その他	8



【回答肢】上から「ほぼすべての科目でフィードバックが得られた」「多くの科目でフィードバックが得られた」「フィードバックが得られる科目と得られない科目が半々程度であった」「フィードバックが得られない授業が多かった」「その他」

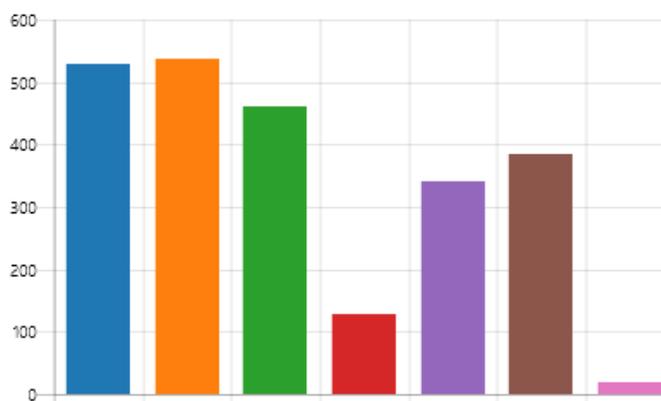
フィードバックの状況については、科目によってかなり差がある印象を受けます。

設問 16 で「自分が前期に受講した遠隔授業の中で『遠隔授業の利点を活かしている』と思う科目名と、『その理由』を挙げていただきましたが（今回のまとめには含まれていません）、この「理由」のところで「フィードバックの丁寧さ」を挙げている方も多く、今後に向けて重要な検討課題と考えています。

## 13. 遠隔授業全般を通じて「よい」と思われる点を教えてください（複数回答可）。

### 詳細

● 自分のペースで、より主体的に学...	530
● 通学の時間の代わりに学修時間...	537
● 課題や映像を何度も見返すことで...	460
● 普通に授業に出席しているよりも...	128
● コロナ禍のさなかに登学する機会...	341
● PCスキルが向上する。	384
● その他	19



【回答肢】上から「自分のペースで、より主体的に学修が進められる」「通学の時間の代わりに学修時間に充てられるなど、効率的な時間の使い方ができる」「課題や映像を何度も見返すことで復習がしやすくなる」「普通に授業に出席しているよりも結果的に学修時間が増え、しっかり学ぶことができる」「コロナ禍のさなかに登学する機会を抑えられたことで、不安やストレスを感じずに済む」「PCスキルが向上する」「その他」

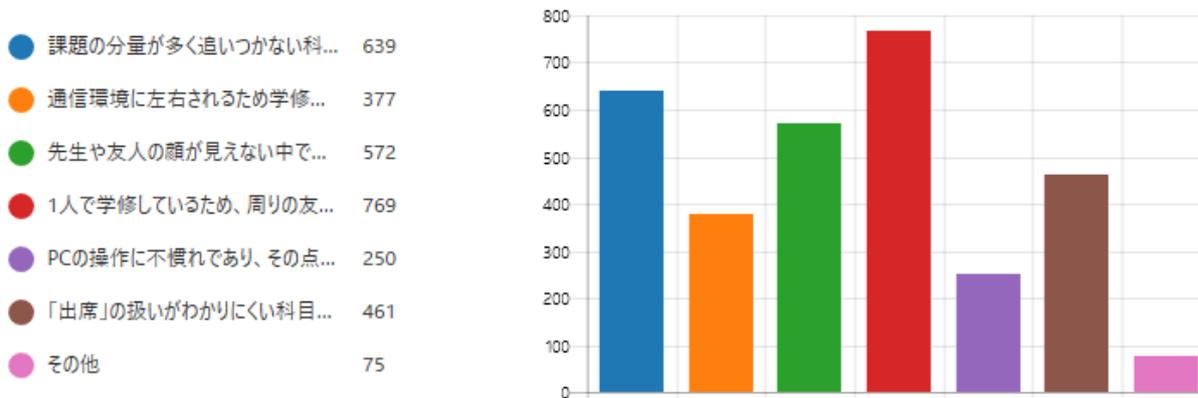
通学時間も含めた「自分の時間」の中で学修ペースをみずから作っていけるのは、通常の対面授業にはない魅力の 1 つといえます。また、対面授業であれば教員が口頭で説明したり板書したりする部分も資料となって残るため、復習がやりやすくなるという利点があります。

加えて感染拡大による危機的な状況下で「登学しなくていい」「多くの人との接触を避けられる」ということに前向きな印象を持つ方も多くおられます。遠方から電車に乗って通学している方や、高齢あるいは基礎疾患をお持ちの方がご家族におられるなど、その危機に日々直面している方ほどそうした感覚が強いかもしれません。

ちなみに、「自分のペースで、より主体的に学修が進められる」「PC スキルが向上する」と回答した方は 1・2 回生に多く、それ以外については万遍なく、といった印象です。

#### 14. 遠隔授業全般を通じて「問題」と思われる点を教えてください（複数回答可）。

詳細



【回答肢】上から「課題の分量が多く追いつかない科目がある」「通信環境に左右されるため学修が進めづらいことがある」「先生や友人の顔が見えない中で学修を進めていくのがつらかったり、心細かったりする」「1人で学修しているため、周りの友人たちと比べて課題等に対する自分の取り組みが十分なものがわからない」「PCの操作に不慣れであり、その点でストレスを感じている」「出席」の扱いがわかりにくい科目があり、気になる」「その他」

もっとも多く寄せられたのは、友人たちと離れて1人で学修を進めていかなければならないことに対する不安や戸惑い、苛立ちといった声でした。また、今自分が学んでいることが実際にどれぐらい身についているかがわからない、実感しづらいという意見も少なからず挙がっています。本学の場合は学科の性質上、演習・実習や実験・実技を伴う科目も多いため、特にそれらの科目についてこうした不安を感じることも多いのかもしれません。

ほかに長時間PCに向かい続けることで目が疲れてしまうなど、心身の疲労を訴える回答も見受けられました。

この設問の回答にも設問13の回答との相関性が見られました。すなわち「PCの操作に不慣れであり、その点でストレスを感じている」という回答は1回生が多く、上回生にはあまり見られませんでした。

#### 15. 「こういう形の遠隔授業が受けてみたい」という希望があれば教えてください（自由記述）。

この設問には249件の回答が寄せられました。いくつかの意見を拾ってみると、

- ・自分の意見や考えだけを提出するより、提出した次の週は友達の意見を見ながらさらに学んだことをまとめる、という授業が1番分かりやすかったので、多くの科目で活かされればもっと主体的になれると思います。
- ・リアルタイムの視聴が必要でない動画視聴での実施後に授業内容の確認のための課題に取り組む。その課題に対し

て講義担当の教員がフィードバックをしてくれるというふうな流れ。

・一斉に授業を受けて、授業の内容から先生が課題や論題を提示する。その後にグループに分かれて、出されたものに対してグループ内でコミュニケーションをとりながら考える。グループ内で発表者を決めておき、考える時間が終了したら、各グループの発表者が発表する。

・グループで議論して何か答えのない問題に取り組みたいと感じた。

・手短にまとめた映像教材を視聴し、簡単なレポートもしくはアンケートを提出し、それに対する反応があるような授業、他の子の反応も共有してくれる授業

・しっかり勉強できているかわからないので、実践的な演習問題をやらせてほしい

・先生の声が入った授業を受けたい。

・正直、教養科目など大勢の生徒が広い講義室に集まって授業するような科目は、全て遠隔授業にすればいいと思う。課題の提出によって出席がつくのなら、その課題を出すためにレジュメを深く読むので理解が深まるし、受講率も上がると思う。

・対面授業のような遠隔授業

・先生と資料と一緒に写っている授業を受けたいと思った。その方が先生がどこを指しているかわかるし、表情もわかるので対面授業に近い形になるのではないかと思った。

・他大学の授業を合同で受けることが出来る授業(チームズで)

・対面がいい。みんなに会いたいです。

など、本当にさまざまな意見を寄せていただきました。今後の遠隔授業実施にあたって、大いに参考にすべき結果と考えています。

畿央大学 教務委員会

## 【総評】

畿央大学の学生らしい真摯な回答が返ってきました。懸命に授業に取り組んでいる様子が目に浮かびます。

このアンケートは、1 回生から 4 回生までの全学年と全学科を対象とし、集計結果も全学年、全学科を合わせたものです。したがって、当然のことながら、回生によって、学科によって、また質問内容によって、その分布の隔たりは異なってくることは注意しておいてください。たとえば、このアンケート結果の分析の欄に述べられているように、上回生になればなるほど、遠隔授業にさほどストレスを感じていないことがあるようです。したがって、1 回生でストレスを感じた学生も、後期にはこれまでよりはそれほど感じなくなるかもしれません。

また、アンケートには反映されていませんが、科目によって遠隔授業には適さないけれど、この時点ではやむを得ずこの方式を採用している科目も少なくないことも承知しておいてほしいと思います。

加えて、突然の非対面の授業形態に戸惑っているのは、学生だけでなく、また教員も同じです。学生の皆さんが、個別の授業の中で不満を持っている科目があるとすれば、それはまた教員の側の熟練の精度が上がることによってなにほどかは改善される余地もありそうです。

今回の調査の主眼は、遠隔授業のなかでどのような利点を見出しているかを知ることでした。結果は、学生の多くがこの状況を積極的に活用しようとする前向きな気概を持っていることを知ることができました。遠隔授業という方法は、使い次第では一人でじっくり考えてみる良い機会を与えてくれるものであり、通学に時間を使うことなく、自分の好きな時間のなかで、ときには自分のリズムで、ひとつの授業の時間を自分に合わせて自在に分割したり、統合したりしながら、自分のペースでわからないところ、興味あるところを繰り返し学習できます。そのことは大きな魅力のひとつでしょう。PC に慣れない新入生が躓きを繰り返しながらも、このような魅力を発見し、着実にスキルをアップさせていくことは、本人にとっても大きな喜びになるのではないのでしょうか。

もちろん、問題点がないわけではありません。一人で学習を進める自己学習の方式は、他者(教員や同じ授業を学ぶ学生)の目が届きにくいために、ともすれば独りよがりになり陥ったり、どのくらい身についているかわからず、不安になったりすることもあるでしょう。実習・実験・実技など自分の身体を使って習得していくことが基本となる科目を遠隔授業で行われると、ビデオで自転車の乗り方を指導されているのと同じ感がするかもしれません。同じ科目を学ぶ学生同士での議論や考えに触発される機会も、この方式では限られてくることもアンケートで指摘されている通りです。

総じて、非対面の授業を経験することで改めて対面授業の良さを再認識した人もいることでしょう。しかしながら、重要なことは、非対面の授業は非対面の授業であって、対面授業を物差しにして良しあしを測ることはできない、ということです。むしろ、今回は新たな学習のスタイルとスキルを獲得することができたと考え前向きな姿勢が、何よりもこの状況のなかにあって求められることと思います。

今回指摘された問題点や課題を、後期から予定される対面授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッド型の授業運営形態に積極的に生かしていきたいと思います。

(文責 教務委員長 前平 泰志)